

第2回 教職の魅力創造プラットフォーム会議 議事録

日時：令和6年12月15日（日）11：00～12：05

場所：山形大学基盤教育1号館1階会議室

出席者

出口 毅	山形大学副学長（教育担当理事）
中西 正樹	山形大学地域教育文化学部 学部長・大学院教育実践研究科 研究科長
吉田 誠	山形大学 地域教育文化学部 教授
石垣 和恵	山形大学 地域教育文化学部 教授
江間 史明	山形大学 大学院教育実践研究科 教職実践専攻長
森田 智幸	山形大学 大学院教育実践研究科 准教授
叶内 有希絵	山形県教育局 高校教育課 指導主事
小笠原 空	山形大学地域教育文化学部児童教育コース 4年
原田 朋奈	山形大学地域教育文化学部児童教育コース 3年
矢口 真衣	山形県立山形西高等学校 2年
山科 勝	山形県立小国高等学校 校長
樋渡 美千代	山形市立第十小学校 校長
宮舘 新吾	山形大学 大学院教育実践研究科 准教授

欠席者

委員 伊藤 智	山形県立山形西高等学校 教諭
委員 阿曾 圭佑	山形県立山形東高等学校 2年

議事に先立ち、宮舘委員から、次第の挨拶について、出口副学長にお願いすることとなったため、修正いただくよう説明があった。その後出口副学長より、挨拶として次の通り発言があった。

- ・ 第1回会議で、高校の探究学習として教職が取り上げられているが、そのテーマ設定がどちらかというとブラックなものに偏っているという矢口委員からの話が印象に残っており、厳しい現実があることを感じた。
- ・ どの領域でも担い手不足が話題となっており、教員もその一つとなっている。そうした状況の中で、ネガティブなところをきちんととらえて、ポジティブなものに変化させていくためにも、本日は多様な立場からのご意見、ご要望をいただき、教職の魅力を発信していきたい。

本会議は今年度2回目の開催であり、また、意見交換に多くの時間を使用できるように、詳細な自己紹介は割愛し、協議事項は「山形大学地域教育文化学部及び大学院教育実践研究科教職の魅力創造プラットフォーム会議規程」第5条により、中西正樹委員を議長として進めることが提案され、了承された。

議 題

I 協議事項

1 教職の魅力創造プロジェクトの進捗状況について

中西研究科長より、スケジュールの関係から、聞き書きプロジェクト→小学校教員体験セミナー→学びのフォーラムの順で進行する旨、発言があった。

江間委員から、資料2に基づき聞き書きプロジェクトについて、叶内委員から、机上配付資料に基づき小学校教員体験セミナーについて、森田委員から資料3に基づき学びのフォーラムについて説明があり、確認がなされた。次いで、以下のような意見交換があった。

① 聞き書きプロジェクトについて

- ・ 来年度から本学部で始まる特別教育プログラムの学生が、将来山形で教師になるので、必修とまではしないけど、そういう学生が希望した場合はこのような取り組みやってもらいたいと思う。
- ・ 語りたいこと、考えたいことがたくさんあったときに、恩師にインタビューした内容が長文となるが、聞き書きの作品で本当に伝えたいところはどこなのかを、大学教員が実際に学生と話をしながら絞っていく必要がある。
- ・ この聞き書きプロジェクトでインタビューを受けている先生と一緒に仕事をしていた時代があり、その先生が今こうして、学生があこがれる先生として紹介されており、とてもうれしく感じる。この先生とは、ともに学級づくりに悩み奮闘したので、そうした先生方のいろいろな思いやモヤモヤなど、きれいな部分だけでない生の声を聞く場面が学部生にもっとあるといいのではないかと思う。

(関連意見)

☆ 講義のように何人かにまとめて話すのとは違って、1対1で対話するから互いに刺さる部分がある。学生の勉強になることはもちろん、インタビューを受けた先生にもためになる部分があると思う。また、情報だけでなく、そのとき何を悩んでいたのか、どう思ったのかというところを聞くことで、少し迷いのある学生の意思が固まることもある。

- ・ 実は高校でも似たような取り組みをしているところがある。それは仕事図鑑の作成で、単に仕事の内容をまとめるものではなく、仕事に打ち込む情熱や思い、生き方をインタビューし、まとめるものとなっており、本校でも何かできないかと検討している。この聞き書きプロジェクトも、まさしく教員を目指している人の仕事図鑑だと感じた。また、こうしたものを作成する場合、大学生で少し学んだから書けるもの、高校生から書けるものなど、立場によって若干違いがあると思う。

(関連意見)

☆ 学部1年生で実施するとどうなるのか、ということも考えてはいる。最初の段階で自分の思っていることを、教職のロールモデルや問題意識の出発点となった恩師の方と話してみるのもいいかもしれない。しかし、本格的に学ぶ前なので、その背景や分野を知らないまま実施するのと、教育実習などに行き、その経験を踏まえてから、先生という職業を見直した時に実施するのとではまた違うので、今のところ上学年でやったほうが良いと考える。希望者がいれば、低学年でも実施してみてもいいと思うが、高校生

の方へ、やってみたいと思うか教えていただきたい。

- ◇ やってみたいと思うが、生徒目線、教えられる側として聞いてしまいそう。一通り教職に関する授業で学んでから取り組めば、生徒から先生側に意識がチェンジできると思うので、それまでインプットしたものを高学年になってからアウトプットしたほうがいいのではないかと感じる。

- ・ ブラックな現状ばかりを調べるよりは、先生の思いや考えを聞きに行ったほうが、探究の活動としてはおもしろいのではないかと思う。

(関連意見)

- ◇ 以前勤務していた学校の探究授業で、同じように教員の労働環境の実態に関係するテーマを持っている生徒がいた。以前のプラットフォーム会議で聞き書きプロジェクトの話を聞いていたので、その生徒に中学校の先生を目指すのなら、先生にインタビューする手もあることを伝えたとこ、インタビューを実施したとのことだった。インタビューを終えて、教員のやりがい、なぜこの先生は教員を続けているのかと考えるようになり、そのインタビューが心に残った様子だった。

② 小学校教員体験セミナーについて

- ・ 昨年より倍以上の高校生が参加しており、好意的な感想も多くうれしく思う。このセミナーを通して、教職を志す生徒が増えた実感はあるか教えていただきたい。

(関連意見)

- ◇ 数が劇的に増えた実感はないが、小、中、高のどの教員を目指すか迷っている生徒が、小学校に行ってみたいと思えたり、ほかの職業と迷いつつも教育系に興味があるという生徒が増えるきっかけにはなったと感じている。
- ◇ 教育系を志願している生徒たちのモチベーションを維持するためにも、こういった取り組みをうまく活用していくことが必要。

- ・ セミナー実施後のアンケートの、小学校教員になりたいという気持ちは、セミナーに参加する前後で変化はあったかという質問項目についての回答は、変化はなかった(もともと持っている)という生徒 34.7%、とてもなりたいたに変わった 14.6%、なりたいたに変わった 47.9%となっている。

- ・ 大学生として本セミナーに参加し、高校生のサポートをさせていただいたが、自分が関わった高校生は、楽しかったという感想を持っている生徒が多かった。また、こんなにすごいことを毎日やっているのかと、あこがれが強くなり、先生の見方が変わったという生徒もいた。現時点では中高の先生になりたいが、小学校も視野にいれたいと思うようになった学生もいて、そういう面で高校生に価値あるものだと思う。

(関連意見)

- ◇ 実際に触れあった高校生が、悩んでいるところからこの職業を目指す、と変化した感触があれば教えていただきたい。
- ◇ 小学校1年生を担当した高校生が、子供と中間休みを過ごしたり、授業中サポートする中で、楽しいという思いが強まり、小学校教員になりたいと振り返りの際に話していた。

- ・ 運営側として事前に注意事項を説明していたが、周りの学生の様子も踏まえ、来年度以降、事前に説明してもらいたいと感じた点があれば教えていただきたい。

(関連意見)

- ◇ 事前に説明をいただいておりますが、大学生としてもやりやすかったと思うので、特に追加の要望はない。

- ・ 引率、運営の確保というところで、高校教育課からバスの引率をいただくことになり、ご負担をおかけしている。遠方の高校の場合、その高校の教員から引率をいただくということになったら参加は難しいか。

(関連意見)

- ◇ 進学指導重点校はそれなりに先生の人数がいるので、派遣依頼が来れば行けるのではないかと。ただ、よくあるのは2年生が参加するので、2年生の担当教員から引率を派遣するとなった際に、「都合がつかない」と断られるケースもあるので、可能な限り早めにご案内いただければと思う。

- ・ もともと小学校教員志望で、本セミナーには去年と今年参加させていただいた。今回は、2時間目から3時間目まで、中間休みも含めて3年生をみていた。そのため中間休みの先生の様子や、最近の小学生は何をしているのかということも見ることができ、去年と比べてより充実したものとなった。自分の周りで教師になりたいという子は文系の生徒が多いが、理系でも教員志望している生徒がおり、このセミナーが、教員になりたいという気持ちを高めるいいきっかけとなっていると思う。

- ・ このセミナーはある意味学校現場のバックヤードツアーのような要素もあると思うが、ほかに見たかったところなどあれば教えていただきたい。

(関連意見)

- ◇ 難しいかもしれないが、クラスでの仕事のほかに、職員室などの授業づくりのための作業や、先生同士がコミュニケーションをとっている場面を見てみたい。想像はできるものの、具体的にどのようなことをしているのかを知りたい。
- ◇ 中学校、高校では異なるかもしれないが、小学校では中間休みは職員室に先生方はおらず、放課後になると戻ってきて、いろいろ話している様子。

③ 学びのフォーラムについて

- ・ 小学校教員体験セミナーの振り返りの時も話題となったが、参加した高校生に対して、その後大学からアプローチする手段がなかった。来年3月に特別教育プログラムのオープンキャンパスのようなイベントを検討しており、その情報を小学校教員体験セミナーに参加した高校生に伝えたいが、手段がない。そのため、来年度からは、例えばセミナーに参加した高校生に、今後大学からの案内を希望する場合には、メールアドレスの登録などを求めることも検討している。

(関連意見)

- ◇ いろんなところでお互いに宣伝しあえばいいと思う。

- ◇ 今の発言に関連するが、チラシは小学校教員体験セミナーの時に配ることは可能か。もしそこで配布し、体験の感想をその場で話してもらえば、その感想を聞いて学びのフォーラムに参加したいという生徒もでてくるのではないか。
- ・ 小学校教員体験セミナーに参加した後も、大学で開催するイベントなどがあったら参加したいと思うか、高校生の方にお聞きしたい。
(関連意見)
 - ◇ 参加したいと思う。学びのフォーラムの1回目に参加しており、本日開催の3回目にも参加予定。1回目のグループワークでは、内容が難しいこともあり、結論には至らなかったが、多様な立場の方と議論ができ、深い学びにつながった。
- ・ 先ほど話したとおり、3月の終わりにイベントを企画しているが、3月の最終週の開催とした場合、スケジュール的に高校生は参加できそうか教えていただきたい。
(関連意見)
 - ◇ 自分は文化部のため特に行事はないが、運動部は難しいかもしれない。自分が所属している部活は土日の活動がないため、土日のほうが参加はしやすい。
- ・ 宣伝の話に関連して、ロコミの影響も大きいと思うが、小学校教員体験セミナー参加の話や、学びのフォーラムのロコミなどは話題にあがってきたか、大学生の方へお聞きしたい。
(関連意見)
 - ◇ 高校生から参加しているが、当時在学していた高校では、こういったイベント事が頻繁に宣伝されており、その中に学びのフォーラムもあった。個人的には、学びのフォーラムで現職の先生と話せるということが印象的だった。小学校教員体験セミナーでは先生と話せなかったのも、先生が考えていることを知りたいと思い学びのフォーラムへ参加したことで、それを知ることができ、教員になりたいという気持ちが強まった。

2 今年度の今後の予定

森田委員から、今年度の本会議開催は今回で最後となるが、来年度も引き続き各機関からのご協力をお願いしたい旨、述べられた。

II その他

宮舘委員から、外部委員（大学生を含む）に対し、今年度の本会議やプロジェクトへの参加を通じての感想（参加記）執筆について依頼と詳細説明があり、令和7年1月31日（金）を目途として提出いただくこととなった。

（当日の記録写真を次ページに掲載）

